



武蔵野大学
AI副専攻
Musashino University AI SUBMAJOR



認定の有効期限：
令和11年3月31日まで

認定の有効期限：
令和11年3月31日まで

AI副専攻(AI活用エキスパートコース)

AIやデータサイエンスを利活用する人材を育てるコースの応用
基礎レベル申請に向けての経験談



AIなんて
踏み台に
してしまえ

MU AI
SUBMAJOR

Adobe Fireflyにて作成

2026年3月10日(火) 17:00-19:00

武蔵野大学

スマートインテリジェンスセンター

林 浩一 (教授/センター長/コース長)

中村 太戯留 (准教授)

八幡 健司 (課長)

目次（AI副専攻を応用基礎へ）

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000236.000067788.html>

- ご挨拶（2分、by 林 浩一 教授/AI副専攻のコース長より）
- 教員の立場で推進したこと（7分、by 中村 太戯留 准教授）
 - AI副専攻の概要
 - AI副専攻を応用基礎に申請するために実施したこと
 - 受講生を増やす努力／離脱者を減らす努力
- 事務の立場で推進したこと（5分、by 八幡 健司 課長）
 - 大学内の体制づくりの工夫（スケジュール・組織体制）
 - 情報発信での工夫（大学HP・プレスリリース）

PR TIMES プレスリリース・ニュースリリース配信サービスのPR TIMES プレスリリースを受信 企業登録申請

Top | テクノロジー | モバイル | アプリ | エンタメ | ビューティ | ファッション | ライフスタイル | ビジネス | グルメ | スポーツ

学校法人武蔵野大学 会社概要 プレスリリース

【武蔵野大学】「副専攻（AI活用エキスパートコース）」が文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に認定！

入門科目の修了者は約12,000名。AIを活用できる人材育成を全学的に推進

学校法人武蔵野大学 2024年10月18日 15時10分

1



MDASH Advanced Literacy
数理・データサイエンス・AI
教育プログラム認定制度
応用基礎レベル

数理・データサイエンス・AI
教育プログラム認定制度
応用基礎レベル

武蔵野大学（東京都江東区）の「副専攻（AI活用エキスパートコース）」（以下：AI副専攻）が、新たに文部科学省が推進する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）に認定されました。

本認定制度は、学生の数理・データサイエンス・AIに関する大学などの教育機関が提供する正規課程の教育プログラムで、一定の要件を満たした優れた内容を持つものを文部科学省が認定する制度です。本学はこれまで、AI副専攻の入門科目（「データサイエンス基礎」と「人工知能基礎」）で同制度の「リテラシーレベル」の認定を受けており、修了者は累計で約12,000名※に達しています。※入門科目は1年次必修（データサイエンス学科を除く）2024年10月現在

ご挨拶 (AI副専攻の支援体制)

AI副専攻コース長



林 浩一 (はやし こういち)
MUSICセンター長、情報技法、
人工知能技術と社会 他

•元ITコンサルティング会社社長
書籍・記事執筆多数

+ 学外の先生方

他大学の先生、企業の研究者
会社の経営者、コンサルタント...

+ SA (副専攻先輩方)

AI副専攻教員



中山 義人 (なかやま よしひと)
NTTD-IM現役社長、メディアリテラシー、
サービスデザイン 他



鈴木 大助 (すずき だいすけ)
MUSIC所属、メディアデザイン、データ
サイエンス活用、機械学習活用 他



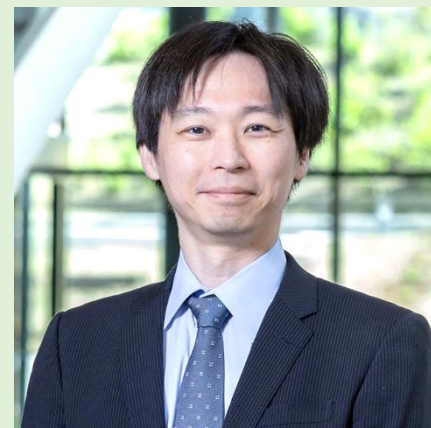
中村 太戯留 (なかむら たぎる)
MUSIC所属、データサイエンス活用、
データサイエンス基礎、人工知能基礎 他



宮田 真宏 (みやた まさひろ)
MUSIC所属、人工知能技術と社会
情報技法発展A,C、サービスデザイン、他



糸田 孝太 (いとだ こうた)
MUSIC所属、プログラミング、機械学習
活用、メディアデザイン 他



有馬 宏和 (ありま ひろかず)
MUSIC所属、メディアデザイン、機械
学習活用 他



田丸 恵理子 (たまる えりこ)
MUSIC所属、情報技法、サービスデ
ザイン 他



武蔵野 友視 (むさしの ともみ)
某大学 経営学科2年生
AI先輩 トモちゃん (教員じゃないよ)

ニュ

武蔵野大学 グローバル 【NEWS】 本学の「副専攻 (AI活用エキスパートコ... | ニュ...

JAPAN STUDY SUPPORT

Information for international students

2024/12/06 武蔵野大学 グローバル 学校ニュース

【NEWS】

本学の「副専攻 (AI活用エキスパートコース)」が文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 (応用基礎レベル)」に認定されました！

本認定制度は、学生の数理・データサイエンス・AIに関する大学などの教育機関が提供する正規課程の教育プログラムで、一定の要件を満たした優れた内容を持つものを文部科学省が認定する制度です。本学はこれまで、AI副専攻の入門科目 (「データサイエンス基礎」と「人工知能基礎」) で同制度の「リテラシーレベル」の認定を受けており、入門科目の修了者は約12,000名。AIを活用できる人材育成を全学的に推進しています。

詳細：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000236.000067788.html>

<https://www.jpss.jp/ja/news/2871/>

教育系メディアに見る武蔵野大のAIの取り組み②

トップ > 学校・団体 > 武蔵野大、GPTsを活用した独自の学修支援サービス「AI先輩」を通信教育部向けに導入

2025年10月15日

武蔵野大、GPTsを活用した独自の学修支援サービス「AI先輩」を通信教育部向けに導入

✕ ポスト

B! Bookmark 0

武蔵野大学は、同大通信教育部の心理学専攻の学生向けに、OpenAI社のGPTsをベースに開発した独自の学修支援サービス「AI先輩」を10月からトライアル導入した。

「AI先輩」は、授業で使用している教科書や講義内容を学習しており、学生からの質問には、教科書に基づいて回答。記載のない内容は自らの考えとして補足するなど、授業に即した形で助言する。



通信教育には、学生一人ひとりの生活スタイルに応じて時間や場所を問わず学べるメリットがある一方、孤独感を抱

えやすく、分からないことを質問しにくいという課題があるが、「AI先輩」を導入すれば、学生に寄り添った学習環境が提供でき、主体的で効果的な学びをサポートできる。

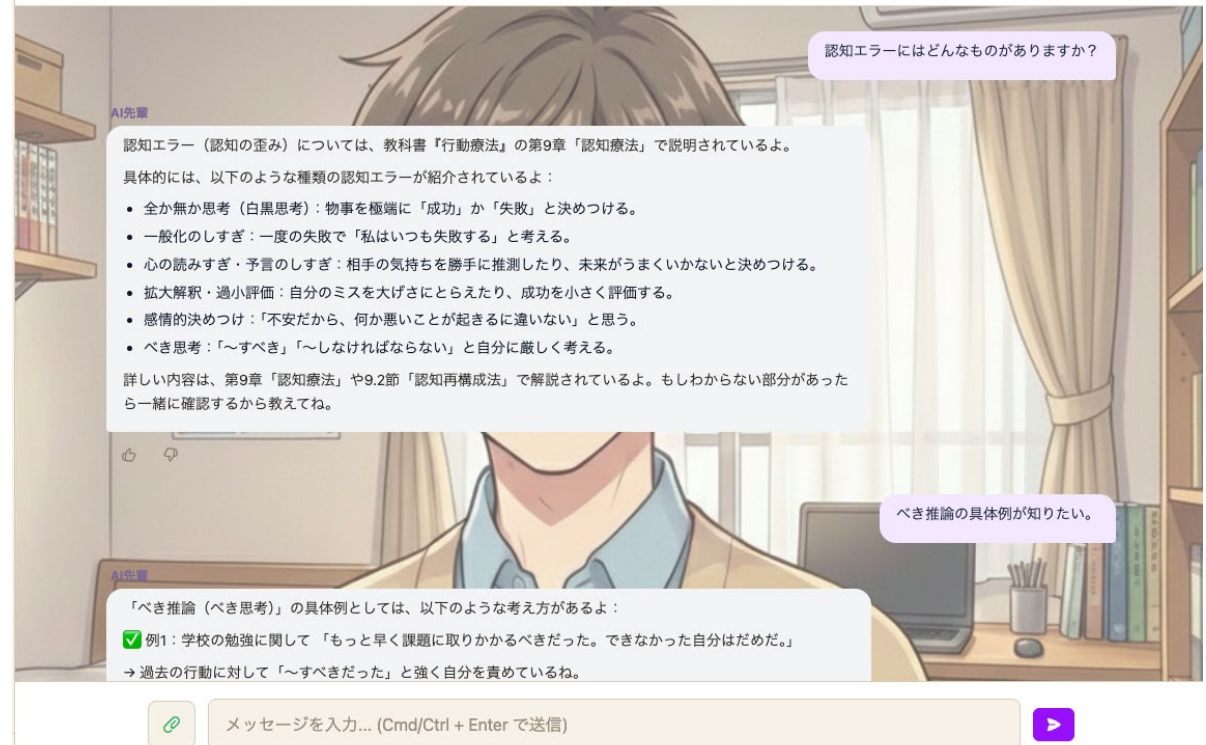
「AI先輩」は、教授の代替ではなく、学びをともにする親切的な“先輩”として位置づけられており、学生は気軽に質問でき、理解の補助や興味の深掘りにも活用できる。

<https://ict-enews.net/2025/10/15musashino-u-4/>

ICT
教育ニュース
ict-enews.net

次期バージョン

AI先輩



教員の立場で推進したこと

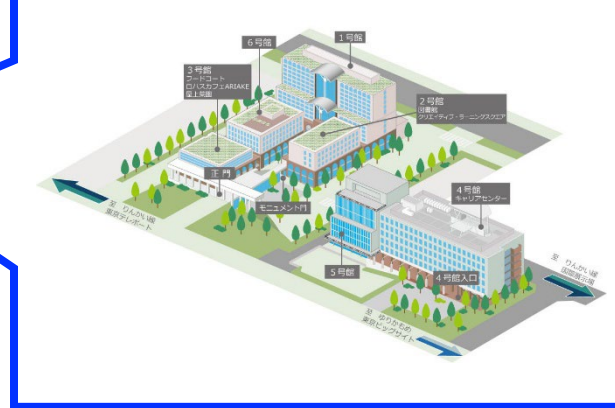
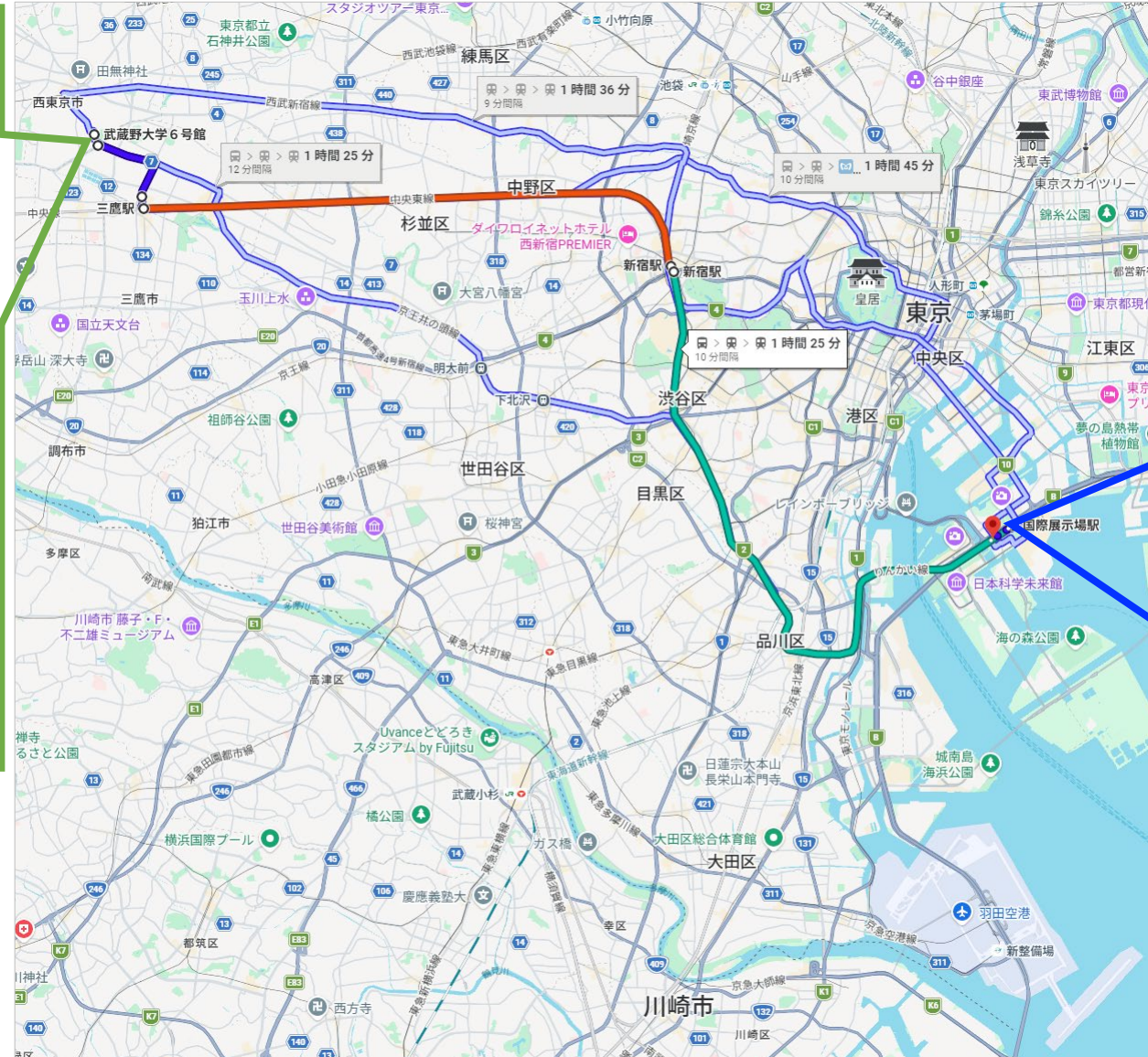
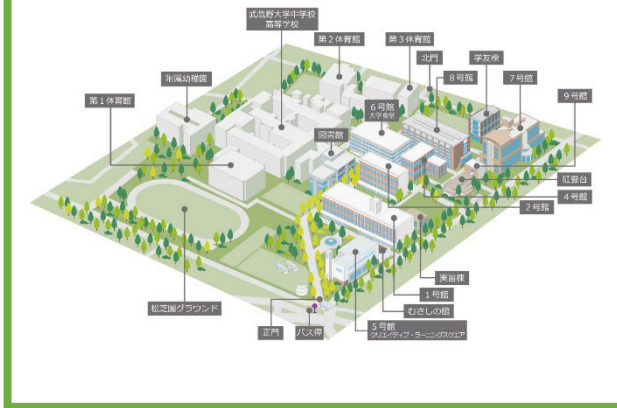
(7分、by 中村 太戯留 准教授)

AI副専攻の概要

AI副専攻を応用基礎に申請するために実施したこと
受講生を増やす努力／離脱者を減らす努力

武蔵野大学のキャンパス

<https://www.musashino-u.ac.jp/access.html>



武蔵野キャンパス

有明キャンパス

武蔵野大学の学部・学科

<https://www.musashino-u.ac.jp/academics/>



文学部

武蔵野キャンパス 日本文学文化学科



グローバル学部

有明キャンパス グローバルコミュニケーション学科

有明キャンパス 日本語コミュニケーション学科

有明キャンパス グローバルビジネス学科



薬学部

武蔵野キャンパス 薬学科



看護学部

有明キャンパス 看護学科



人間科学部

有明キャンパス 人間科学科

武蔵野キャンパス 社会福祉学科



ウェルビーイング学部

武蔵野キャンパス ウェルビーイング学科



法学部

有明キャンパス 法律学科

有明キャンパス 政治学科



経済学部

有明キャンパス 経済学科



経営学部

有明キャンパス 経営学科

有明キャンパス 会計ガバナンス学科



アントレプレナーシップ学部

武蔵野キャンパス アントレプレナーシップ学科



データサイエンス学部

有明キャンパス データサイエンス学科



国際データサイエンス学部
(通信教育部)

有明キャンパス データサイエンス学科(通信教育部)



工学部

有明キャンパス サステナビリティ学科

有明キャンパス 数理工学科

武蔵野キャンパス 建築デザイン学科



教育学部

武蔵野キャンパス 教育学科

武蔵野キャンパス 幼児教育学科

AIエキスパート ≠ AI活用エキスパート

(データサイエンス学部/国際データサイエンス学部)

(AI副専攻)



楽器を作るエキスパート

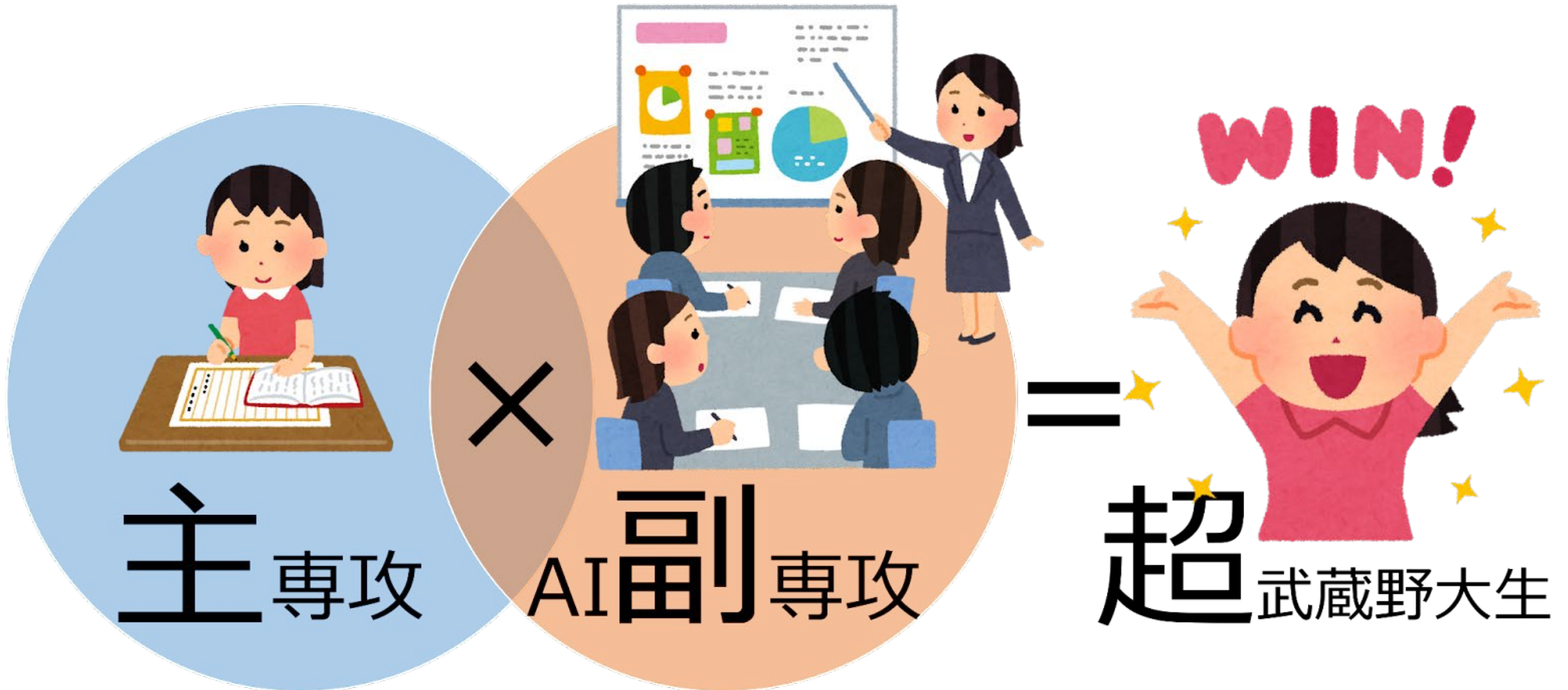
(データサイエンス学部/国際データサイエンス学部)



楽器を演奏するエキスパート

(AI副専攻)

AI副専攻の概要（掛け算のチカラ）



超武蔵野大生のAさん：データ分析を得意とする

(イメージを伝えるためのペルソナであり実在の人物ではない)

アパレル会社で新規事業を企画するビジネスプランナー

■ Profile

- 武蔵野大学**文**学部卒業 女性 25歳
- 新規事業開発部に配属。上司とともに新規事業の企画に参画

■ 仕事の内容

- 上司のリードの下、事業企画の計画立案をしている
- AI副専攻で学んだ**データ分析とAIツールによる動向予測**を使い**社長向けプレゼン**のための基礎資料を作成している

■ AI活用の価値観

- **AIは自分のスキルの増幅ツール**
- 膨大なデータから意味のある情報を汲み上げられるのは業務知識を持ってAIツールを使いこなせる**自分だけ**



超武蔵野大生のBさん：AIツールを独自に使いこなす

(イメージを伝えるためのペルソナであり実在の人物ではない)

大手ネット通販会社で人材のマッチングを行うHRエキスパート

■ Profile

- 武蔵野大学**法**学部卒業 女性 27歳
- HR人材開発部に配属。人材採用と社内人材配置を担う

■ 仕事の内容

- 技術部門向けのスタッフ選定を任されており、AIツールを活用して、社員スキルマッチングを行っている
- 技術範囲が広くすべてを理解できないところをAIでカバー
- **AIツールが挙げてくる候補に面談をして適性を判断して関連部門長に提案している**

■ AI活用の価値観

- **AIは仕事のパートナー**
- 自分にできないことをAIに、AIにできないことを自分がすることで最大の成果が出せているのは**自分だけ**



超武蔵野大生のCさん：AIの仕組みまで理解している

(イメージを伝えるためのペルソナであり実在の人物ではない)

食品会社のDXを牽引するプロジェクトマネージャー

■ Profile

- 武蔵野大学**経済**学部卒業 男性 30歳
- AI活用の知識を見込まれてDX推進部に配属
- 顧客対応をAI化するための総額8億円のサービス開発を担当

■ 仕事の内容

- サービスの実現はAI技術の得意な開発会社の技術者が行う
- **社内外の数十名からなる開発チームのリーダー**
- 社内のユーザ部門である営業部門と**AI技術者との橋渡し**してサービスの仕様を明確化している

■ AI活用の価値観

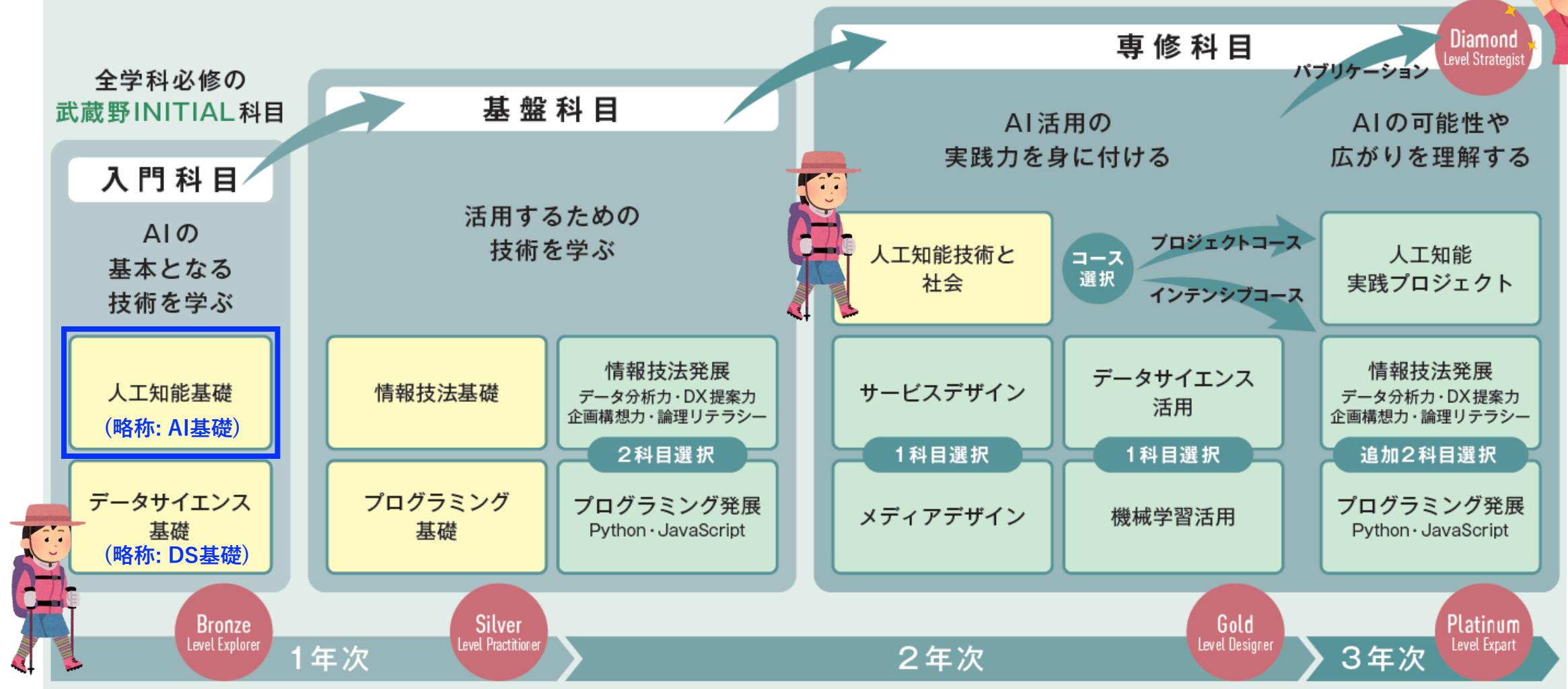
- **AIは大きな仕事のためのプラットフォーム**
- プログラミングの知識をベースに開発の専門家と話ができ、高付加価値のサービスを実現できるのは**自分だけ**



AI副専攻の科目構成 (レベルごとのデジタルバッジや正式の修了証あり)



● 学ぶ意欲や関心の高まりに応じた段階的なコース構成で、学びやすいカリキュラム



授業シラバスをもとにアウトプット型の授業の準備

AI副専攻を応用基礎に申請するために実施したこと（資料は2026年度のAI基礎の改定版）

課題	週	各週のタイトル	学修目標	課題（内容）
基礎課題	1	キャンパスネットワーク (AI活用の基礎)	キャンパスネットワークの基本を理解する。具体的には、①キャンパスネットワークに接続できる、②電子メールやTeamsやMUSCATを毎日確認できる、③電子メールの作法を踏まえて教職員にメールを送付できる。	電子メールの作法を踏まえて担任講師にメールを送付する。
	1		キャンパスライフを題材としつつ生成AIを活用するための基本を理解する。具体的には、④生成AIを用いてオープンデータを対象とした調査ができる、⑤生成AIを用いて状況のイラスト化（可視化）ができる、⑥スライドに調査結果を添えてプランをまとめることができる。	NotebookLMを用いて、キャンパス内外の食事を調べ、Geminiを用いてイラストを作成し、Slide 1枚に、自身の食事プランをまとめて提出する。※前年度のDS基礎のキャンパスライフ調査の(B)項の食事に関する自由記述を分析対象とする。
基礎課題	2	コンピュータ (AI活用の基礎)	コンピュータの基本を理解する。具体的には、①コンピュータのハードウェアやソフトウェアの基本を理解する、②コンピュータのファイルやフォルダの基本を理解する、③コンピュータの不明点の理解やトラブルの対処方法について生成AIや教職員に状況説明を添えて相談できる。	自身のノートPCのスペックを調べ、その内容をGeminiに解説してもらった結果の画面をPDFとして保存して提出する。
	2		コンピュータ活用を題材としつつ生成AIを活用するための基本を理解する。具体的には、④生成AIを用いてオープンデータを対象とした調査ができる、⑤生成AIを用いて状況のイラスト化（可視化）ができる、⑥スライドに調査結果を添えてプランをまとめることができる。	NotebookLMを用いて、PCを活用した学修の利点を調べ、Geminiを用いてイラストを作成し、Slideの1枚に、自身の理想の1日をまとめて提出する。※前年度のDS基礎のキャンパスライフ調査の(C)項のPCの利点に関する自由記述を分析対象とする。
基礎課題	3	AI活用：自然言語の認識	AIを活用して自然言語を扱う基本を理解する。具体的には、①自然言語を認識するときにはルールベースと機械学習ベースのAIが使われていることを知る、②自然言語を表現する基本となる文字のデジタル表現と文字コードを理解する、③音声認識のプログラムを活用して発話を簡易的に文字おこしできる。	Collaboratoryを用いてエキスパートシステムの基礎を学ぶ。
基礎課題	4	AI活用：画像や音声の認識	AIを活用して画像ないし音声を扱う基本を理解する。具体的には、①画像ないし音声を認識するときには機械学習ベースのAIが使われていることを知る、②情報を表現する基本となる二進数や情報量の単位であるビットやバイトを理解する、③画像認識のプログラムを活用して顔画像を簡易的に認識させられる。	Collaboratoryを用いて機械学習の基礎を学ぶ。
活用課題	3	AI活用ミニプロジェクト	自然言語を対象としたAIツールの基本を理解する。具体的には、④生成AIを用いてオープンデータを対象とした調査や状況のイラスト化（可視化）ができる、⑤生成AIを用いて簡易的なチャットボットのプログラムを作成できる、⑥スライドに調査結果や簡易プログラムの動作画面を添えてプランをまとめることができる。	NotebookLMを用いて、学修時間の確保のポイントを調べ、Geminiを用いてチャットボットを作成し、自身で実施してみたいの感想に、Geminiで作成したイラストを添えて、Slideの1枚に自身の学修時間の確保のプランをまとめて提出する。※前年度のDS基礎のキャンパスライフ調査の(A)項の学修時間に関する自由記述を分析対象とする。
活用課題	4		画像ないし音声を対象としたAIツールの基本を理解する。具体的には、④機械学習 (Teachable Machine)の使い方を知る、⑤自分が興味を持つ分野における画像ないし音声を対象としたAIツールの活用事例を知る、⑥機械学習の活用案を具体的に考案する。	Teachable Machineを用いて、2種類の画像を区別できる仕組みを作成して提出する。
活用課題	5		AIを活用したミニプロジェクトの目標を設定する。具体的には、①チャットボットか機械学習かどちらか一方を選んでゴールを設定する、②選んだAIツールを用いて最低限動作するプロトタイプを制作する、③対象ユーザの視点からプロトタイプを改良する。	ミニプロジェクト(企画編)：私たちのキャンパスライフを便利にするためのツールを作成せよ。※第3週で学修したツールか、第4週で学修したツールか、どちらかを選んで使用すること。それ以外のツールを選択した場合は評価をワンランク下げられる場合があるので注意。 グループワークとして企画案とメンバーの役割分担をスライドにまとめて提出する。※グループ課題
活用課題	6		ミニプロジェクトの発表準備をする。具体的には、①初めて聞く聴衆にもわかりやすい表示資料を準備する、②プロトタイプを実際に動かすデモンストレーションの準備をする、③実際に時間を測ってプレゼンテーションする練習を10回以上繰り返す。	ミニプロジェクト(準備編) グループワークとして発表用のスライドを作成して、発表日の前日までに提出する。※グループ課題
活用課題	7		AIを活用した提案をする。具体的には、①実施したAI活用ミニプロジェクトの目的を説明する、②実装したプロトタイプで用いたデータを説明する、③プロトタイプの実装を通して提案したい内容を説明する、④どうやって実装したかの方法を説明する、⑤実際の動作内容を説明する。	ミニプロジェクト(発表編) 相互評価の結果のコメントと改善案をNotebookLMを用いて調べ、Slide 1枚にまとめたものを提出する。※個人課題 ※発表の様子は録画し、担任講師が採点する。S評価2割、A評価4割、BCは残り、という比率で。各評価の具体的な配点は各クラスで決めること。

アウトプット型の学修

↓↓ モデルカリキュラムの生成AI強化に対応 (2026年度のAI基礎の例)

学修目標④～⑥

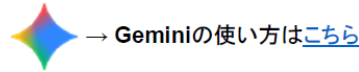
Gemini と NotebookLM

共通点

- Googleが開発したAIツール
- 武蔵野大学から提供している学生アカウントでログインすると、追加料金なしでセキュアな環境で利用できる

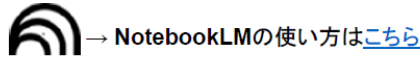
相違点 (向いているタスク)

- Gemini** ← 新しいアイデアや幅広い情報が必要なとき
 - ゼロベースでのアイデア出し
 - 一般的な情報検索と要約
 - クリエイティブなコンテンツ作成の支援



→ Geminiの使い方は[こちら](#)

- NotebookLM** ← 正確な情報を引き出し、分析や整理をしたいとき
 - 複雑な資料の分析と整理
 - 調査・研究の効率化
 - 社内コンテンツの作成



→ NotebookLMの使い方は[こちら](#)

- ご注意: 無料版の個人アカウントだと情報漏洩の危険性あり!

参考サイト:
<https://music-helpdesk.mubs.jp/>
<https://googleworkspace.tscioud.co.jp/gemini/notebooklm-gemini-differences>
<https://www.notta.ai/blog/notebooklm-vs-gemini>

Copyright © Musashino University Smart Intelligence Center, All Rights Reserved.

世界の幸せをカタチにする。



学修目標④～⑥

基礎課題 1b: キャンパス内外での昼食プランを立てよう!

- STEP 1. NotebookLM を用いて先輩たちが残してくれた昼食情報を調査しよう!
- STEP 2. Gemini の画像生成機能を用いて自身の食事プランに添えるイラストをつくろう!
- STEP 3. Slide に調査結果やイラストを添えて自身の理想的な1週間の昼食プランをまとめよう!

※具体的な手順などは以降のスライドを見ながら取り組んでみよう!

学修目標④

NotebookLM に昼食情報を読み込む

<https://notebooklm.google.com/> ①アクセス



③このリンクをコピー

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/>

学修目標④

NotebookLM で読み込んだ情報を確認して適切なタイトルをつける



※タイトルは自動的に付いている場合もあります

学修目標④

NotebookLM にリクエストしてみる



※情報ソースが複数ある場合は
不必要なソースは選択解除します

記入例:
武蔵野キャンパス内の食堂のオススメのメニューを教えてください。
有明キャンパス内の食堂のオススメのメニューを教えてください。

※「キャンパス内」を「キャンパス近郊」に変更したり、
「食堂」を「売店」に変更したり、指示を工夫してみよう!

学修目標⑤

Gemini にイラストの生成をリクエストしてみる

<https://gemini.google.com/> ①アクセス

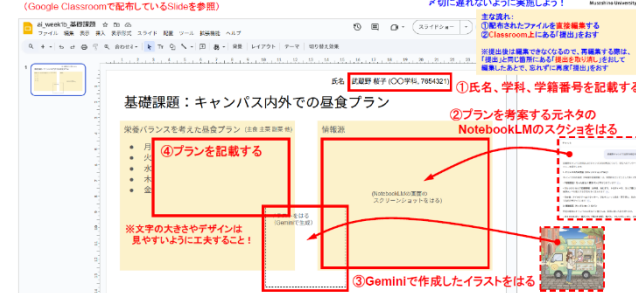


記入例: 移動販売車でメロンパンを買う女子学生のイラストをPNG画像として生成してください。

※「背景画像を大学のキャンパス内の道路」と指定するなど、指示を工夫してみよう!

学修目標⑥

自身のキャンパス内外での昼食プランをまとめる



Learning by Doing (John Dewey)

利用者を明確に設定させる (AI基礎の例)

利用者を具体的に設定

利用場面を具体的に想定



その人がその場面で
役立つツールを提案!

授業計画 ※2回分(200分)×7週

- 【第1週】キャンパスネットワーク(AI活用の基盤)
- 【第2週】コンピュータ(AI活用の基盤)
- 【第3週】AI活用:自然言語の認識
- 【第4週】AI活用:画像や音声の認識
- 【第5週】ミニプロジェクト(企画編)
- 【第6週】ミニプロジェクト(準備編)
- 【第7週】ミニプロジェクト(発表編)

ミニプロジェクトのミッション

私たちのキャンパスライフを便利にするためのAIツールを作成せよ!

受講生を増やす努力／離脱者を減らす努力

各学科とAI副専攻の連携

- 各学科の新入生ガイダンス（4月）
 - AI副専攻の紹介と履修方法の説明
 - 修了生から新入生へのビデオメッセージ
- 各学科の履修状況の懇談（10月）
 - 修了生の発表会の様子の共有
 - 離脱者の確認と次年度の対策の検討
- 各学科の進級状況の懇談（2月）
 - 進級者・離脱者の確認と対策の検討
 - 新入生ガイダンスの打ち合わせ



事務の立場で推進したこと

(5分、by 八幡 健司 課長)

大学内の体制づくりの工夫 (スケジュール・組織体制)
情報発信での工夫 (大学HP・プレスリリース)

■ 計画的スケジュール構築

- シラバス記載内容の精査（申請の**前々年**）
- 学内組織体制の構築（申請の**前年**）

■ 組織体制の構築

- 組織下に**WG**を設置し**定例MTG**開催
 - MUSIC内にMDASH取得のWGを設置
 - 毎週月曜日に30分の定例会開催（進捗管理）
- **複数部署**への協力依頼
 - 教員組織：MUSIC（研究機関）
 - 事務組織：MUSIC事務課（主担当：全体）
 - ：学務課（副担当：履修者）
 - ：教務課（副担当：カリキュラム）

参考：会議資料（審議・決定）

副専攻(AI活用エキスパートコース)における「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」の申請について

MUSICでは、副専攻(AI活用エキスパートコース)を開設し、令和3年度に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の認定を受けています。

この度、本コースの修了生輩出に伴い、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」の申請を致したく、以下のとおりお諮りいたします。

1. 制度概要

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（別紙1）

2. 認定要件

(1) 大学、短期大学、高等専門学校の正規の課程

※要件を満たす科目が、卒業単位に含むことができる科目である必要がある

：

(7) 当該教育プログラムを実施した実績

※前年度以前の実績を以て申請を行うため、履修実績が必要

※計画段階の教育プログラムではなく、1年以上の実施実績を有する教育プログラムであること

（数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）実施要綱細目より抜粋）

3. 申請内容

(1) 対象プログラム 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）

(2) 対象科目 別紙2参照

(3) 適用年度 令和6年度コース生より適用

※認定を受けた年度から履修している学生に対し適用が可能

情報公開での工夫（大学HP・プレスリリース）

■ 大学HPおよびプレスリリースで情報公開

- 情報掲載
 - 大学HPで必要情報（カリキュラム等）掲載
- 情報発信
 - プレスリリースにて内外に告知

プレスリリース（情報発信）

【武蔵野大学】「副専攻（AI活用エキスパートコース）」が文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に認定！

入門科目の修了者は約12,000名。AIを活用できる人材育成を全学的に推進

学校法人武蔵野大学 2024年10月18日 15時10分



MDASH Advanced Literacy 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 応用基礎レベル
Approved Program for Mathematics, Data science and AI Smart Higher Education, designated by the Gov of Japan

武蔵野大学（東京都江東区）の「副専攻（AI活用エキスパートコース）」（以下：AI副専攻）が、新たに文部科学省が推進する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）に認定されました。

大学HP（情報掲載）

文科省認定のプログラム

科目群は、入門科目、基盤科目、専修科目に分かれ、順次高度化します。このうち、武蔵野大学生の全員が学修する入門科目の2科目は、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定されています。また、副専攻（AI活用エキスパートコース）の修了要件を満たす科目群は、同制度の応用基礎レベルに認定されています。



認定の有効期限：令和8年3月31日まで



認定の有効期限：令和11年3月31日まで

主専攻との無理のない履修

入門科目を学んだ後、次のステップに進もうと考えた学生がAI副専攻の受講を申し込むことで、専門科目まで履修することが可能です。これらの科目のいずれも、主専攻の学科の卒業単位に組み込めるので、わざわざ別の勉強を追加するというのではなく、無駄なく履修することが可能です。

認定プログラム

- ・ 副専攻（AI活用エキスパートコース）【応用基礎レベル】
数理・データサイエンスの入門として、データサイエンスや人工知能（AI）技術などの関心を高め、それを扱うことができるための事前知識・スキルを習得することを目的としています。
- ・ データサイエンス・AI入門【リテラシーレベル】
数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それらを扱う能力を身に付けるのに必要な知識及び技術を、体系的に習得する入門コースです。

認定プログラムの
詳細はこちら



以上、AI副専攻の経験談でした

